



30年前 30年後

ニュースを見ていると「特別警報」や「避難」等の言葉をよく聞きます。異常気象が毎年のようにこう起きると、それが普通のような気になってしまうのが怖いところ。自分が若いころは、気温が35度以上なんてめったになかったし、雨が降るにしてもすぐに警報が出るようなことはなかったように思います。先日、訳あって平成元年に卒業した教え子たちと会いました。30年前と今とでは大違いなんだと、家に帰ってからしみじみ感じた次第。学校に関係することだけでもずいぶん違います。



- 土曜日が全部休みになり、夏休みや冬休みが短く（土曜日は学校から帰って昼食を食べながら、〇本新〇劇を見るのが楽しみという話は定番）
- 低学年の社会や理科が生活科に。そして総合的な学習が（総合的な学習には教科書がなく、学校独自で進めていくというのには、当時かなりインパクトあり）
- 運動会の種目や内容（ラジオ体操は第2もあって、「組体」の技や内容も時代の要請で変化）
- 教科書が薄くなってまた厚く（円周率は3.14ではなく3で計算。おまけに算数の教科書には「電卓使用可」の印があり、クラス全員が電卓を使って計算することも）



そして、今日は図書ボランティアのお母さん方が来校する日だったので小学生の頃と比べて違うところを聞いてみました。

- 給食は（食器が金属だった。牛乳は三角パック。お残り不可）
- 体操服や水着（女子の体操服が特に恥ずかしくて…。水着はみんな同じ色と形）
- プールの回数（授業や夏休み中の回数がとにかく多かった）
- 公園のでの遊び（ボール遊び禁止の公園はなし）
- 警報発表時のあつかい（警報が出ていても友達と普通に帰った）

…etc

教科やその内容はともかく、熱中症や日焼け対策、警報や臨時休校に関しては、世間からの風当たりが強くなったからだとか、神経質になりすぎているからだとかではなく、異常気象のせいだと思うのですが。

それこそ30年後はどうなっているのか、想像すらつきませんね。